

会議結果報告書

令和7年11月17日

会議の名称	第5回 東地区まちづくり懇話会	
種別	<input type="checkbox"/> 附 屬 機 関 <input checked="" type="checkbox"/> 懇 話 会 等	
開催日時	令和7年10月20日(月) 10時00分～ 12時00分	
開催場所	市役所本館3階 301会議室	
出席者	別紙のとおり	
議題	市長との対話 「東地区まちづくり構想について」	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開 <input type="checkbox"/> 部分公開 [理由]	
傍聴者数	0名	
審議結果 及び 主な意見等	別紙のとおり	
会議録の作成様式	<input type="checkbox"/> 詳 細 <input checked="" type="checkbox"/> 要 約	
備考		

担当課	舞鶴市建設部都市計画課 TEL (0773)66-1048
-----	----------------------------------

第5回東地区まちづくり懇話会

1. 日時:令和7年10月20日(月)10:00~12:00

2. 場所:市役所本館3階 301会議室

3. 出席者:(委員)嶋田委員、川井委員、名取委員、芦田委員、福村委員、渡邊委員、岡井委員(オブザーバー)
(事務局)上羽次長、山下主幹、阿部係長、浪江

山本次長、高橋係長

4. 内容:「東地区まちづくり構想について」市長との対話

(1)市長挨拶

- ・人口減少社会は止めることができず、昭和の時代の形が前提のまちづくりではなく、これからの時代に向けた新しいまちづくりをしていく必要がある。
- ・立地適正化計画の基本的な考え方として、しっかりと中心市街地に機能を誘導していくことが大切である。
- ・小手先ではなく抜本的な考え方を行政・市民が共有し、大きな流れを作っていく必要がある。
- ・本懇話会の議論も踏まえながら、2040年を見据えた新たな総合計画、「輝く舞鶴」を作っていくきたい。

(2)事務局説明

これまで4回の懇話会を開催し、議論を深めてきた。東地区まちづくり構想案として、舞鶴高専をまちづくりの軸とし、舞鶴市、高専、産業界・金融界、そして地域が共創してまちづくりを進めていくことが必要だと整理をした。

【意見交換】

○まちなかの現状と課題について

- ・既存の商店街を中心としたまちづくりはもう限界で、発想を変える必要がある。土日もシャッター通りが並び、観光客に活力、元気がないというネガティブな印象を与えている。
- ・商店街の中心部は実勢価格が厳しく需要がない。高齢化が顕著で、所有者が亡くなると特定空き家化するケースがある。東地区の特徴として、間口狭小・奥行長大な画地が多く、駐車場が取れない問題がある。
- ・実際にできることから確実に形にしていくことが大事。高専生などが集まりやすいおしゃれな場所(長くいられる勉強場所など)を作り、人の流れを作るべき。地域では若者に譲るべきという理解はあっても、静かな状態を気に入っている住民もいる。
- ・商店街組織は縮小していくだろう。若い人たちが集まる新しい事業体(プレーヤー)を作る必要がある。行政は国の補助金を取りに行き、投資意欲を後押しすべき。
- ・商店街の物件所有者にはお金持ちは多く現状維持で済まそうとする方が一定数いるため、売買が動きにくい。舞鶴は観光消費額が非常に少ないという課題がある。
- ・賑わいの場所は住民の居場所であるべきで、観光客のための張りぼてになってはならない。地元資産家に対し「この町を変える力がある」というメッセージを発信し、公益的な投資を促すべき。高専生にとっては、学校とま

ちなかの距離が交通手段の面でネックになっている。

・舞鶴の市街地は人口の割に広すぎ、行政サービス提供に限界が来るだろう。商店街は全体利益を考えて動くエリアマネジメントを導入し、賑やかなゾーンと静かなゾーンを分けるべき。公共交通の利便性(駅近)は高専の魅力を高める上で非常に重要である。

○高専の誘導について

- ・抜本的に街中に教育機関を持ってくるという発想がないと駄目。住む場所(寮)も含めて東の市街地にあれば、学生の通い・定着の問題は解決する。
- ・高専の寮は非常に安価なため、寮と張り合うのは厳しい。4・5年生や専攻科生など、自由度が高い学生の研究拠点や機能をまず街中へ誘導し、ロールモデルとすべき。夏休み期間などに学生がまとまって町に住むテスト的なプログラムを実施することも有効。
- ・来年度から高専生向けにベンチャ一起業や地域企業課題解決の授業を連携して検討したい。部活動の地域移行を通じて、高専と中学生や地域との接点を作ってはどうか。
- ・お祭りや楽しいイベントを通じて高専生が街に出てくるきっかけを作り、地域とコミュニケーションを取れる場を増やすべき。使っていいよと言ってもらえる場所などを活用し、まずコミュニティカフェを立ち上げ、学生にやりたいことを提案させて地域と一緒に進めるのが有効。
- ・商店街は高専の誘致にウェルカムであり、特に飲食はバイト不足のため喜ばれる。行政任せにせず、地城市民の人が主導になってワーキングチームを作ることが必要ではないか。
- ・産官学で参画できる補助率1/2程度の補助金をチャレンジし、具体的な政策の具現化を進める。「まちなか高専」のPRセンターのようなアピール拠点をまず作ってはどうか。
- ・1階をオープンなコミュニティカフェとし、卒業生が事業を行ったり、学生がパソコンの相談に乗ったりする場とすれば、賑わいができる。
- ・行政は誰がどのように手を組ませるかが苦手な部分である。今日の対話を踏まえ、実施できるような具体策を次回検討したい。